

横浜市インフルエンザ流行情報

横浜市医療局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

B 型インフルエンザ急増し、学級閉鎖も増加

【第 6 週 (2 月 2 日～2 月 8 日) の概況】

- ✓ 定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **53.30** となり、今シーズン最高値に近づいています。流行警報発令基準の 30.00 を超えた状態が続いています。
- ✓ **B 型**が **96.9%**を占めています。A 型にかかった人も、**再感染に注意**が必要です。
- ✓ 年齢別では、15 歳未満の報告が全体の 81.5%を占めています。
- ✓ 学級閉鎖等は、小学校を中心に 241 施設、患者数は 4,567 人です。

 **咳エチケット**や**正しい手洗い**^{※2}等でインフルエンザを予防しましょう。

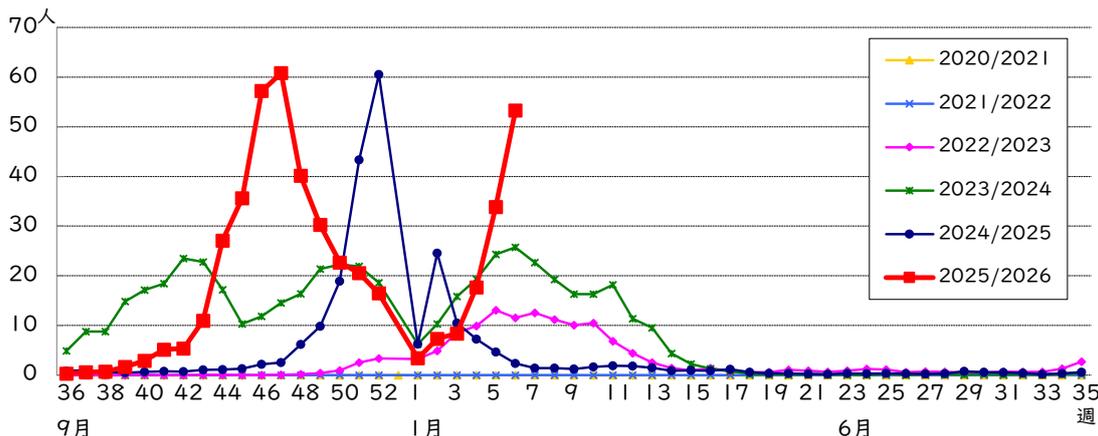


※1 定点あたりの患者報告数とは、1 週間に 1 回、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関 (市内 90 か所) から報告された患者数の平均値です。

※2 [令和7年度 急性呼吸器感染症 \(ARI\) 総合対策に関する Q&A](#) に、インフルエンザの予防方法等について掲載されています。

【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、2025 年 10 月下旬に流行注意報、11 月上旬に流行警報の発令基準を超えました。その後も増加が続き、11 月中旬に 60.78 でピークを迎えました。その後は減少傾向でしたが、年明け以降再び増加に転じ、第 4 週は 17.67 で流行注意報、第 5 週は 33.87 で流行警報の基準を再び超えました。第 6 週は更に増加し、53.30 となっています。



【地図で表した直近 3 週間の区別流行状況】

(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

【参考】前シーズン(2024/25シーズン)の流行推移

流行の開始: 定点あたり 1.00 以上

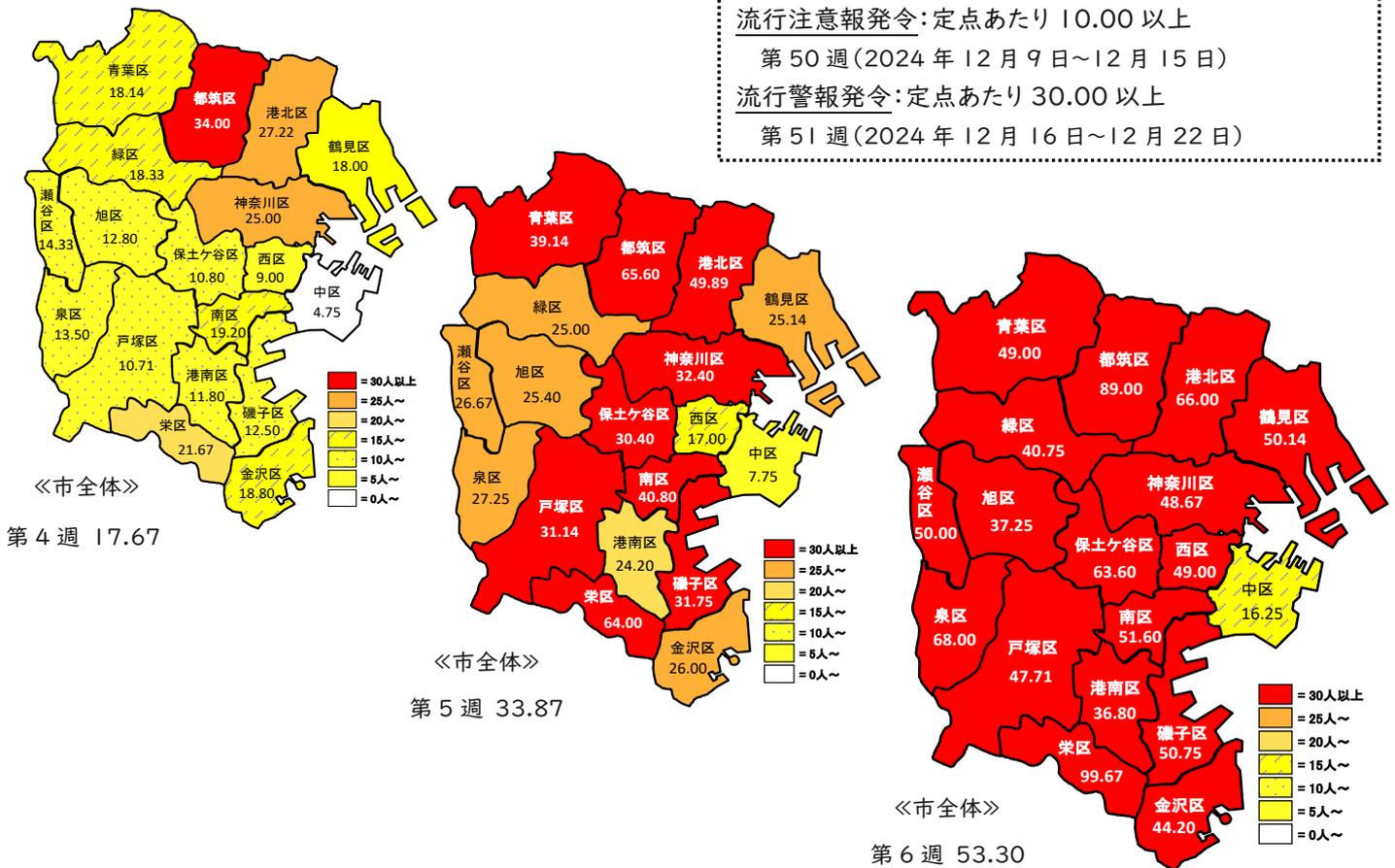
第 43 週(2024 年 10 月 21 日~10 月 27 日)

流行注意報発令: 定点あたり 10.00 以上

第 50 週(2024 年 12 月 9 日~12 月 15 日)

流行警報発令: 定点あたり 30.00 以上

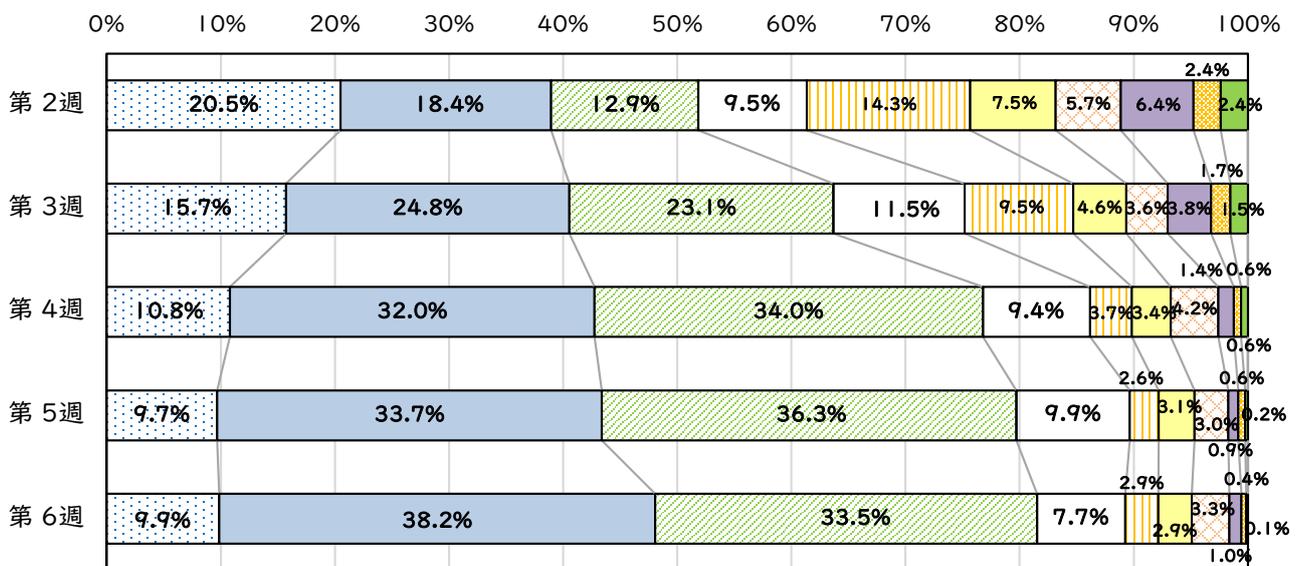
第 51 週(2024 年 12 月 16 日~12 月 22 日)



【年齢層別集計】

第 6 週の患者年齢構成は、10 歳未満が 48.1%、10 歳から 15 歳未満が 33.5%で、15 歳未満が全体の 81.5%を占めています。

<年齢層別患者割合>

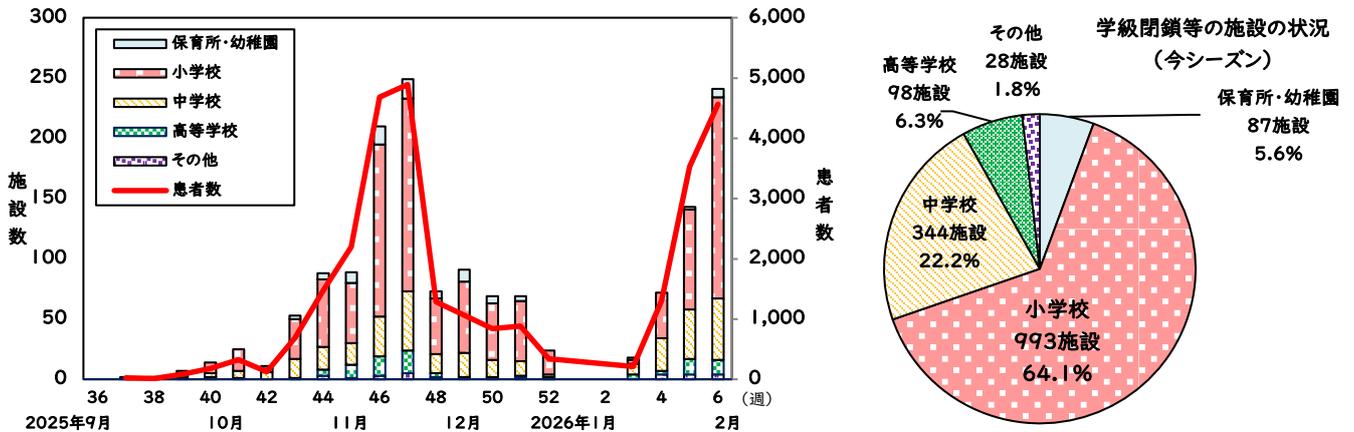


□0~4歳 □5~9歳 □10~14歳 □15~19歳 □20歳代 □30歳代 □40歳代 □50歳代 □60歳代 □70歳以上

※3 小数点以下第 2 位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が 100%にならない場合があります。

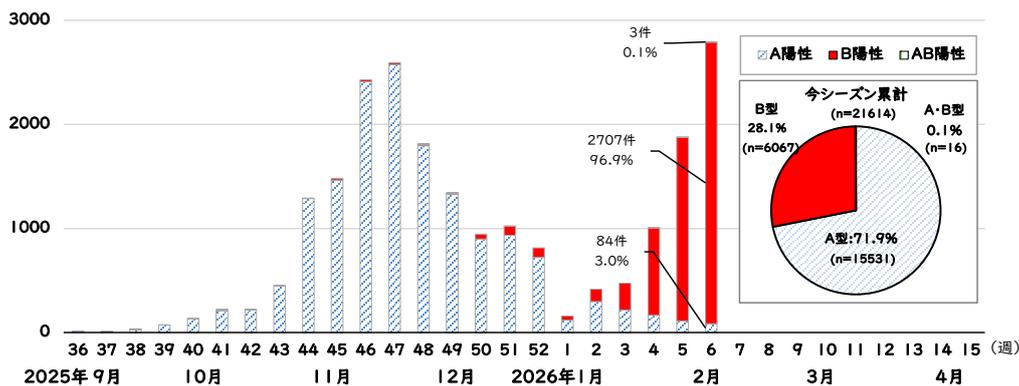
【市内学級閉鎖等状況】

第6週は241施設（保育所・幼稚園7、小学校167、中学校51、高等学校12、その他4）から、4,567人の患者数の報告がありました。なお、今シーズンの累計は1,550施設、延べ28,725人の患者数が報告され、施設毎の割合は、保育所・幼稚園5.6%、小学校64.1%、中学校22.2%、高等学校6.3%、その他1.8%です。



【迅速キット結果】

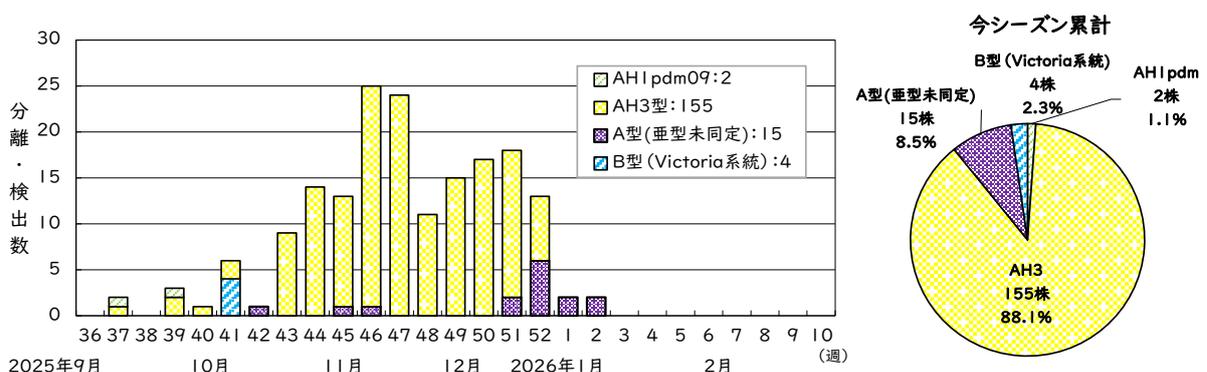
第6週の迅速キットの結果は、A型3.0%、B型96.9%、A型・B型共に陽性0.1%で、B型が多く検出されています。なお、今シーズンの累計は、A型71.9%、B型28.1%、A型・B型共に陽性0.1%です。



【市内病原体検出状況】

市内の病原体定点^{※4}から累計で、A/H1pdm09が2株、AH3型が155株、B型(Victoria系統)が4株分離・検出されています。全国の分離・検出状況^{※5}と同様の傾向と考えられます。

<市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況(2026年2月9日現在)>



※4 病原体定点とは、採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に14か所あります。

※5 [インフルエンザウイルス分離・検出速報 | 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト](#)

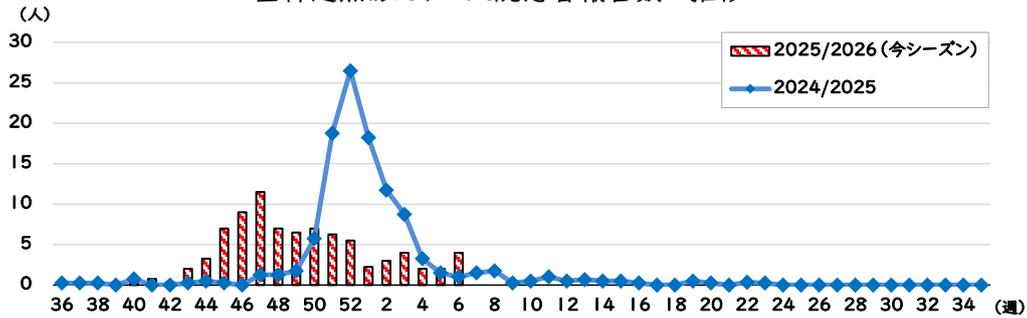
【入院サーベイランス】

市内基幹定点医療機関^{※6}におけるインフルエンザ入院患者は、第6週は16人の報告があり、今シーズンは現在までに累計338人(10歳未満118人、10歳代25人、20歳代8人、30歳代3人、40歳代2人、50歳代16人、60歳代25人、70歳代38人、80歳以上103人)です。

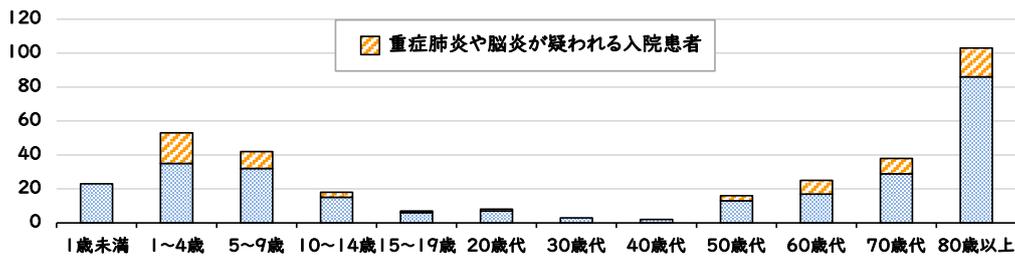
入院時の診療内容(ICU入室、人工呼吸器の利用、頭部CT検査、頭部MRI検査、脳波検査を実施)で重症肺炎や脳炎が疑われる患者は、現在までに累計で70人(うち第6週報告数は0人)です。

※6 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。

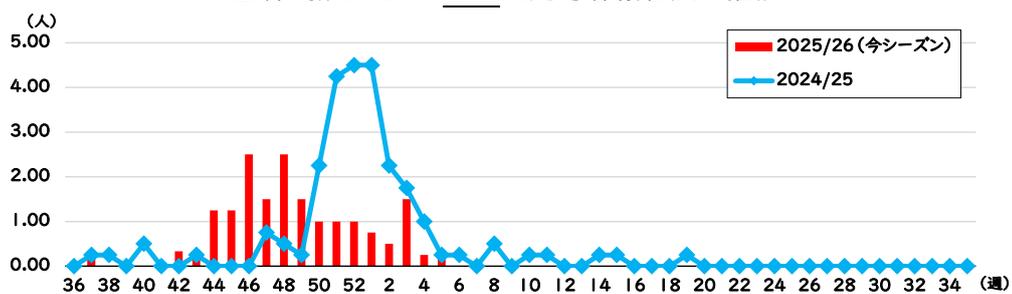
<基幹定点あたりの入院患者報告数の推移>



<基幹定点あたりの入院患者報告数(年齢別)>



<基幹定点あたりの重症入院患者報告数の推移>



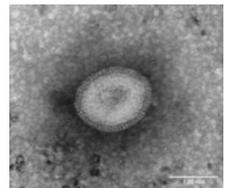
* 参考リンク

近隣自治体の流行状況

- [神奈川県](#) ○ [川崎市](#) ○ [東京都](#)

インフルエンザウイルスの
電子顕微鏡写真(6万倍)

撮影:
横浜市衛生研究所



最新の感染症情報はこちら



横浜メディカル
ダッシュボード



衛生研究所
インスタグラム

EIKEN_YOKOHAMA_OFFICIAL

【お問い合わせ先】

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(370)9237

横浜市医療局健康安全課

TEL 045(671)2463